

第6回基本政策部会 議事要旨

1. 日時：平成26年11月13日（木） 10:00-11:40

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、山川部会長代理、青木委員、片岡委員、白坂委員

(2) 政府側

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 新宇宙基本計画の工程表（素案）について

新宇宙基本計画の工程表について審議を行った。委員から以下のような意見があった。

○衛星によるリモートセンシング全体について、利用ニーズの把握、人工衛星の仕様、運用方法及びデータ利用の可能性等の検討だけでなく、その検討をプロジェクトに反映させるための仕組の構築についても明記すべきではないか。

○衛星によるリモートセンシングについては、人工衛星の共同開発、衛星データの共同利用等、諸外国との協力を進めることが重要であり、これら協力の検討に際しては、リモートセンシング全体の検討と連携する必要があることがわかるような記載をすべきではないか。

○宇宙状況把握（SSA）については、米国との連携が重要であり、米国との調整を加速する必要がある。日米連携のための協議を明記すべきではないか。

○デブリ除去システムの技術実証後、何も続けないのではなく、次の段階へつなげていくことがわかるような記載が必要ではないか。

○海外展開タスクフォースについては早期に立ち上げ、取り組むべき国名を可能な限り明らかにしていくべきではないか。

本日の議論も踏まえ、新宇宙基本計画の工程表に係る基本政策部会の検討結果に関する宇宙政策委員会への報告については部会長に一任し、今後の宇宙政策委員会における取りまとめに反映させるよう調整していくこととなった。

(2) その他

新宇宙基本計画（素案）の政策項目の評価プロセス等について意見交換を行った。委員から以下のような意見があった。

○評価の単位は、個別の施策ごとに細分化するのではなく、政策体系としてまとまりのあるものとすべきではないか。

- 評価の考え方として、改善点等をまとめることを通じて、各府省の施策を後押ししていくことも重要ではないか。
- 宇宙分野は専門性が高いので、評価能力を高める観点で、長期間にわたって評価にたずさわる専門家が必要ではないか。
- 評価に当たっては、個人による専門的視点だけでなく、グループによる多面的視点も必要ではないか。

以 上